

ゆうこだより

2023年1月発行

Vol.

7



○1974年7月31日生 日頃市町出身・現在大船渡町下平在住

○経歴／日頃市小学校・日頃市中学校・大船渡高校・東北学院大学経済学部卒業、衆議院議員秘書、NPO法人職員などを経て、株式会社カメラ社中を起業。2020年4月から大船渡市議会議員〔議会の所属〕総務常任委員会委員・議会運営委員会副委員長・大船渡地区環境衛生組合監査委員

ゆうこの
毎日

2022年10月～12月

新しい年となりました。私が市議を志し、本格的に活動をはじめた2020年1月に国内で新型コロナウイルスが確認されました。いずれすぐに終息するだろうと思っておりましたが、あれから丸3年、未だに続くコロナ禍であります。加えて、原油価格・物価高騰による経済の低迷など、課題が山積する昨今です。私自身も議員となり丸3年が経過しようとしています。より一層、みんなが安心して暮らせる大船渡を目指し、今年の干支、うさぎのごとく、ぴょんぴょんと活発にみなさまのもとへ！【ゆうこ・あるく】を続け、みなさんのお声を市政に反映していきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



住田高校1年生「地域創造学」

12月14日は住田高校へ、12月20日は大船渡高校1・2年生「大船渡学」へ。年末にも高校生との意見交換。若い世代の考えを知ると同時に、政治を身近に感じてもらえる、チャンスととらえ、積極的に参加・お会いしたいと思っています。



NPO 愛知ネット・トヨタ自動車さんと

10月13日■私がお世話になってきた愛知の皆さんはじめ、復興支援で貢献をされてきた企業・団体さんに感謝状が贈られました。

大船渡働く婦人の家
利用者友の会交流会
第27回「婦人の家まつり」

10月15日■「のびのび体操」の一員として参加。ステージ発表や作品展示など、日頃の活動の成果を発表する場は大切なこと。



11月

ダウン症をもつ
家族の集いの場
「SUNNY(サニー)」

11月5日■色々な思いや情報を共有できる場があったらいい！をママたちがカタチにした団体。集まりへ呼んでいただきました。



11月6日■夢ネット大船渡さんと南嶺地域のみなさんと、人生初めてのさつまいも掘りと、チューリップの球根植え作業。



11月17日■震災後からご縁を頂いている学校法人安城学園さんの創立110周年の記念式典に際し、「感謝状」をいただきました。



11月18日■日頃市町独自の男性コミュニティの創出事業。お声がけいただき、人生はじめての蕎麦打ち体験。なかなか難しい！



11月29日■にっぽん丸の歓迎行事。商工会議所女性会・海を愛する会の会員として、「御祝い」でお出迎え。ようこそ大船渡！



12月

大船渡町
本増寺さん

12月1日■昨年に引き続き、私の活動報告会を開催いただきました。活動をお伝えする機会をいただき、本当にありがたいです。

男女共同参画に関わる取り組み

左下) 10月22日 SDGs・ジェンダー平等を実現しよう連続講演会

「女性に対する暴力撤廃の国際デー」パープルリボン啓発活動

右上) 11月13日 サン・リア 他

右下) 11月25日 マイヤ大船渡店



SDGsおふなど



気仙地区・男女共同参画サポーター



国際ソロプチミスト大船渡



優子：市政運営の政治理念やスタンスについて

答弁：市長 総力の源は、言うまでもなく市民。これまで関係各位の御努力によって築かれた大船渡市をより良いまちとするため、市民の声に寄り添い、対話重視の市政運営を進め、10年後、20年後のあるべき姿に向け施策を展開、持続可能なまちづくりの礎を全力で築いてまいりたい。



優子：当市の一般財源には限りがある。今後国・県の交付金の活用は必要であり、より一層、有効的な活用が求められる。今後の活用方針について

答弁：部長 達成目標を数値化した上で、行政評価により課題や進捗の見える化を図り、事業の有効性や効率性に基づき検証しながら取り組んでいる。今後とも、地方創生推進交付金を始めとする各種交付金等の趣旨を踏まえ、地域課題解決に結びつくよう、これまでの取組の実効性を高めながら、積極的に取り組んでいく。



2. 子育て支援策について

優子：こども家庭センターの設置に向けた考え方について

答弁：部長 子供や子育て世帯の抱える問題は、虐待を始め、生活困窮や予期しない妊娠など年々多様化しており、子育て世帯に対する包括的な支援を行うためには、児童福祉と母子保健の連携を更に強化する必要があると認識。国において、全ての妊産婦、子育て世帯、子供等への一体的な相談支援を行う「こども家庭センター」の設置を市町村の努力義務とした。当市においても、既存の児童福祉や母子保健業務への影響を勘案しつつ、有資格者の配置などの組織体制や設置場所等の課題解決を図りながら、二つの支援機関を統合した「こども家庭センター」の早期設置に努めてまいりたい。

ゆうこの視点 我が国における虐待死は、0歳時が約半数を占めている。一体的支援が必要ということもあり、子ども家庭庁が2023年4月に発足します。一方で、当市では母子手帳の発行は警察署の隣の保健センター、児童虐待に関わる案件や保育園等の手続きなどは本庁の子ども課であり、場所が離れています。切れ目ない支援のためにも、「こども家庭センター」設置を契機に、庁内の組織改編も視野に入れ、取り組んでいただきたいと意見しました。



ゆうこの用語辞典



● **こども家庭庁**：深刻な少子化、貧困問題、虐待やいじめ、自殺といった子どもたちを取り巻く社会問題が複雑化している中、それまで各府省庁に分かれていた子ども関連の政策を一元管理し、縦割り行政を解消するための、首相の直轄組織。子供施策の司令塔。主に乳幼児から18歳未満の子ども（政策によっては30歳未満までの青年）を支援することを目的とする。「こどもまんなか社会の実現」が最重要コンセプト。

答弁：部長 市内4か所に設置している「地域子育て支援センター」などで相談対応や情報提供、助言等を実施しながら個別ニーズの把握に努めている。また今年、第3期大船渡市子ども・子育て支援事業計画策定にあたり、市内子育て世帯を対象とした、子育て支援や子供の貧困対策等に関するニーズ調査を実施したい。今後もあらゆる機会を通じて、生の声に耳を傾け、求められる支援を的確に把握しながら支援施策に反映していきたい。

ゆうこの視点 出産祝いでいただく椿の苗木、植える場所を確保している方がいる一方、アパート暮らしなどで植える場所がなかったり、お世話できる方がいない場合、枯らしてしまう。おしりふきなどの実用品と選べたらいいのに！そんなママたちの声も届けました。



会派「光政会」

10月24・25日、会派研修のため、東京に行かせていただきました。初日は、国会・議員会館、そして省庁へ訪問し各種要望とヒアリング。国交省・道路局長（道路要望）→農水省（水産関係）→文科省（ILC）→財務省（鈴木大臣訪問）へ。2日目は、東京都庁の職員さんご案内のもと、豊洲市場を見学。思いがけず大船渡産（赤崎・末崎・大船渡）の牡蠣がたくさん出荷されていて大興奮！せっくなので、お店の方々に大船渡産牡蠣の状況についてお聞きしてきました。



ゆうこの部屋 みんなでおしゃべり会

「大船渡の未来はみんなで作る」

大船渡について、みなさんと一緒に考え、その声を市政に反映していきたいという思いから、日頃市の“ゆうこハウス”などで時折おしゃべり会を開催しています。「おしゃべり会に参加したい！」「こんな話題で話をしたい！」などご希望を寄せください。ゆうこハウスでお待ちしております。また、2名以上お集まりいただければ、市内どこにでも伺い、おしゃべり会を開催しますので、ぜひお声がけください。



10月2日インターン生を囲む

参加者の半分は市外出身者。ざっくばらんに大船渡を語る。



10月18日乳児ママたちと

出産前から現在にいたるまでの現状について率直に。

市政への疑問・質問、地域でのお困りごとなど、お気軽にお聞かせください！

住所：〒022-0002 大船渡市大船渡町字下平 14-1

電話：090-7283-0348 FAX：0192-22-7726

E-mail：yuko.ofunato@gmail.com



yuko.ofunato

yuko_ofunato



大船渡の未来はみんなで作る